

「三島由紀夫 生誕100年」



イメージ像



※『金閣寺』（1956）は、鹿苑寺放火事件に取材した小説で、三島はしばしば「新聞ダネ」に着想を求めた。

第1回 2月 7日（金）午後2時～4時
講義：「三島由紀夫」の少年時代
～「詩人」から「小説家」へ～

第2回 2月14日（金）午後2時～4時
講義：「戦後」の幕開け
～『仮面の告白』を中心に～

第3回 2月21日（金）午後2時～4時
講義：高度経済成長期前夜
～三島由紀夫とジャーナリズム～

講座内容

2025年は、三島由紀夫（1925〔大正14〕年～1970〔昭和45〕年）の生誕100年・没後55年にあたります。

『仮面の告白』『金閣寺』『豊饒の海』『近代能楽集』等の作品で世界的に知られ、今なお、その発言と行動が注目を集める三島ですが、実は彼の満年齢は、昭和の年号と一致します。

本講座では、三島の「年齢＝時代」に注目しながら、作品と作家、そして「時代」を読み解いていきます。



■講師 藤田 佑氏
・相模女子大学日本語
日本文学科専任講師

■募集要領

●12月18日(水)より定員になるまで(12月28日～1月3日まで休館)

午前9時より電話または窓口で受付開始

●場所 大野台公民館 大会議室 ●受講料 無料

●募集人数 50名(先着順)

●申込・問合せ 042-755-6000

●主催 公民館文化部

<裏面参照>



木もれびの森 大野台公民館

講座概要

第1回 「三島由紀夫」の少年時代

～「詩人」から「小説家」へ～

三島由紀夫のセンセーショナルな「最期」は、時代を超えて今なお鮮明ですが、三島由紀夫の「最初」は、実は少年詩人でした。戦時下で育まれた少年時代の文学体験と、「小説家 三島由紀夫」誕生までのプロセスをたどります。



イメージ像

第2回 「戦後」の幕開け

～『仮面の告白』を中心に～

敗戦後、三島は『仮面の告白』(1949)の成功で戦後文学の「旗手」の座に躍り出ます。

本作は、作者の自伝や伝記のようにも読まれますが、「戦後」という時代への挑戦的な野心を秘めています。『仮面の告白』を中心に、昭和 20 年代の三島文学を考えます。



第3回 高度経済成長期前夜

～三島由紀夫とジャーナリズム～

敗戦から戦後復興を経て高度経済成長へと至るプロセスで、三島の知名度は、文学の世界を飛び越え、日本へ・世界へ広がっていきます。その過程で三島は、文学作品を書くだけでなく、ジャーナリズムを巧みに利用し、自分という存在を「作品」に化していきます。映画版もヒットした『潮騒』を中心に、その手つきを探ります。



※『潮騒』(1954)の舞台「歌島」のモデルとなった三重県・神島

講師プロフィール

藤田 佑氏(相模女子大学日本語日本文学科専任講師)

1986年生まれ。東京町田市出身。東京大学文学部卒業、同大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。東京大学助教を経て、現職。博士(文学)

専門は日本の近現代文学で、三島由紀夫を中心に、戦後文学の研究を行う。三島由紀夫の作品・作家研究、戦後文学史の構想、「小説とは何か?」という問題へのアプローチを、主な研究課題としている。著書に『小説の戦後:三島由紀夫論』(鼎書房、2022年7月)、共著に『三島由紀夫小百科』(水声社、2021年11月)等がある。